平松のウツクシマツ自生地~「美しい松」が生える山~

JR 甲西駅から南へまっすぐ行くと美松山という山がありますが、道沿いの広場のあたりに

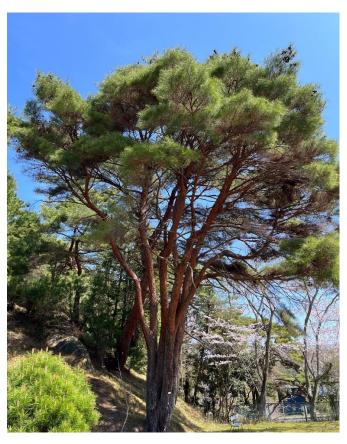
名のとおり松の木がたくさん生えています。ここは**平松のウックシマッ自生地**といい、全国的にみても非常に珍しいところなのです。小学校3年生の授業でここの見学があるので、市民のみなさまは覚えがある方も多いのではないでしょうか。

ウツクシマツと自生地

ウツクシマツというのはアカマツの一種ですが、普通の松とはどう違うのでしょうか。それは写真や実物を見れば一目瞭然、幹が根本で数本に分かれて広がるように伸びています。この特性は子孫に受け継がれにくく、ウツクシマツの遺伝子を持っている木でも 100 本中3~4本程度の割合でしか発生しません。

そんな珍しいウツクシマツが天然更新、すなわち自然の中に集団で生息している場所は 日本国内でここだけなのです。大正 10 年 (1921) に平松のウツクシマツ自生地は<mark>国指</mark> 定の天然記念物となりました。

ちなみに、天然記念物はウツクシマツでは なくこの土地の方。松そのものが珍しいのは もちろんのことですが、自然環境下でウツク シマツが生きている自生地という場所はオン リーワンであり、これからも守り伝えていく べきものなのです。



令和7年現在のシンボルツリー

ウツクシマツはいつからあった?

「**東海道五十三次**」の浮世絵にウツクシマツが描かれているのが確認できることから、江戸時代にはすでに人々に知れ渡っています。地元の人だけでなく、東海道を行き交う旅人にとっても心癒される名所であったようです。

さらに古い時代の言い伝えもあります。公家の 藤原頼 平が病気療養のため平松を訪れたところ、松尾 明神の使いを名乗る少女たちが現れます。神様に見守ら れるありがたさに頼平は感激し、気づけば山にある松が 見たこともない形に変わっていた、というものです。頼 平はこの不思議体験を天皇に報告し、確認にきた朝廷の 使いが「**美し松**」と名付けたそうです。

頼平が松のことを報告したのは文徳天皇(850~858年在位)とされています。ファンタジーな伝承であり正式な記録とは言えませんが、もしかしたらウツクシマツは 1000年以上前からこの地に存在していたのかもしれません。



三代広重『東海名所改正道中記』 ウツクシマツと平松山が描かれています

ウツクシマツ、ピンチ

天然記念物に指定された頃には約450本あったウツ クシマツですが、今は79本。100年ほどの間にずいぶ

ん減ってしまいました。マックイムシ¹による松枯れ被害と、環境の変化²により新しい松が育ちにくくなった、という 2 点が大きな理由です。貴重な松がこれ以上減らないよう、市では虫よけの薬をまいたり(最近はドローンを使っています!)落ち葉かきなどを行って環境を整えています。

古くから多くの人に愛されてきたウツクシマツ。この珍しい松が自生する素晴らしい自然をこれからも守っていきたいものです。

² 松の成長には栄養が少ない土地が適する。昔の人は山から草などを持ち帰って燃料などに使っていたが、生活が便利になった現代では山に入る必要がなくなり草や落ち葉がほったらかしに。栄養が豊富な土壌では他の木との競争に負け、松が育ちにくい環境になってしまう。



ウツクシマツ自生地 (職員撮影)

¹ 木の皮を食べるカミキリムシ(マツノマダラカミキリ)や、その腹の中にいる小さな線虫(マツノザイセンチュウ。木の内部に侵入し枯らす)など、松を荒らす害虫の総称。